想定される地震被害と特定建築物

東川町とその周辺で、明治以降の地震体験は、震度３以上のものが１７件ありました。中でも震度４以上の大きな地震は、1952年と1968年の２件、いずれも十勝沖地震でした。

1993年（平成５年）7月12日22時17分

北海道南西沖地震

北海道南西沖でM7.8の地震がありました。小樽、寿都、江差で最大震度５を観測しました。特にこの地震では、波源域に近い奥尻島に津波が大きな被害を残しました。［死者202名、行方不明28名、負傷者323名、家屋の全・半壊1,009棟、船舶損壊1,729など］

1 想定される地震

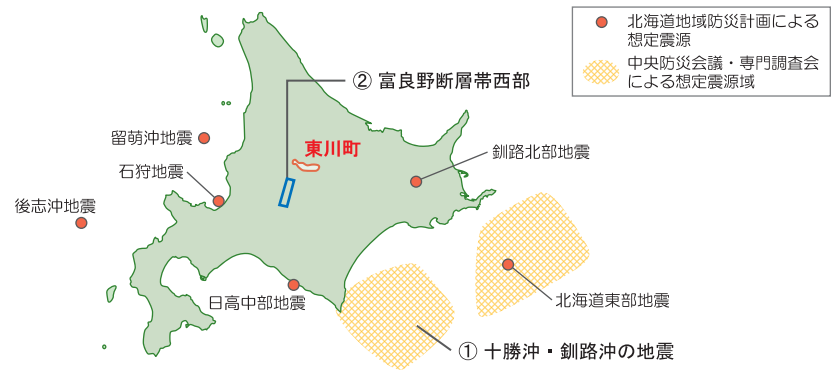
東川町において想定される地震で、規模の大きなものは、「十勝沖・釧路沖の地震」「富良野断層帯西部」「全国どこでも起こりうる直下型の地震」の３種類の地震です。

最大で平均震度（役場周辺）でマグニチュード５．６（震度５強）が予測されます。

■想定される地震とマグニチュード（計測震度）、平均震度

東川町において想定される地震	地震規模（震　源）	平均震度（役場周辺）	
		計測震度	震度階級
①十勝沖・釧路沖の地震 過去の大規模地震で推定した地震震度（北海道、中央防災会議想定）	M7．7	M4．1	震度4
②富良野断層帯西部の地震 活断層による地震震度（内閣府地震調査研究推進本部）	M8．3	M4．7	震度5弱
③全国どこでも起こりうる直下型の地震（中央防災会議推定）	M6．9	M5．6	震度5強

東川町で想定される地震



2 地震災害の想定

最も大きな被害が想定される地震は「全国どこでも起こりうる直下型の地震」です。想定される最大震度の地震が発生した場合、以下の地震被害が予測されます。

① 建築物の倒壊想定

建築物総数7,302件（固定資産税台帳/平成19年11月末）に対し、全壊は31件（0.4%）、半壊では528件（7.2%）、合わせて559件（7.7%）が被害を受けます。

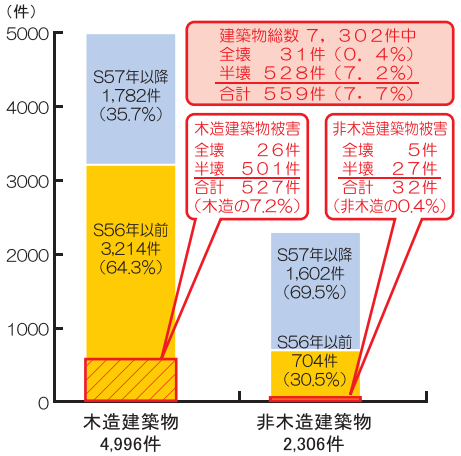
全壊棟数の83.9%、半壊棟数の94.9%は木造建築物です。

建築基準法の新耐震基準が適用される昭和56年以前建設で、特に木造建築物は、地震の被害を多く受けると予測されます。

②死傷者の数の想定

人口7,731人（平成19年11月末/住民基本台帳）に対し、死者は１人、負傷者は60人と、全人口の0.8%程度が被害を受ける可能性があると想定されます。

東川町の住宅・建築物の被害想定



資料：東川町調べ（平成19年11月末）

3 特定建築物

耐震改修促進法に定める多数の利用者がある一定規模以上の建築物。これらの建築物については、所管行政庁（本町においては北海道）が、所有者に対して耐震化の指導・助言を実施し、指導に従わないものに対しては指示及び公表し、更に安全性に問題のあるものには勧告、命令を行うことが定められています。

■東川町の特定建築物の概要

区　分	件　数
多くの者が利用する特定建築物（第１号）	９件
危険物の貯蔵等の用途に供する特定建築物（第２号）	７件
多数の者の円滑な避難を困難とするおそれがある特定建築物（第３号）	なし
合　計	１６件

資料：東川町調べ（平成19年11月末）

震度２（計測震度 1.5～2.5）

人間：屋内にいる人の多くが、揺れを感じる。眠っている人の一部が、目を覚ます。

屋内：電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。

震度３（計測震度 2.5～3.5）

人間：屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。恐怖感を覚える人もいる。

屋内：棚にある食器類が、音を立てることがある。

屋外：電線が少し揺れる。